

元気な島をもっとパワーアップ！

～家族経営協定で夢のある生活設計～

山口県漁協はぎ地区大島女性部
部長 濱村 友枝

1. 地域の概要

萩市大島は、明治維新発祥の地、城下町「萩」から8 km沖合にある周囲7.7 kmの小さな島（図1）で、人口967人、世帯数295戸で漁業と農業を主体に生活している（写真1）。

定期船は萩まで25分で1日5往復あり（写真2）、上下水道も平成15年に完備され、90パーセントの普及率となっている。島には若い人が多く、また、新規漁業就業者が家族とともに島外から移り住む人もあり、今年度には新しく2棟目の市営アパート（写真3）も建てられた。

2. 漁業の概要

漁業は、「萩の瀬付きアジブランド」で知られるようになったアジなどを獲る中型まき網をはじめ、刺網、棒受網、一本釣、潜水、定置網など、一年を通じて多種多様な魚を水揚げしている（写真4）。

3. 研究グループの組織と運営

大島女性部は部員数104名、平均年齢47歳と若く（写真5、6）、とても明るく活気のある女性の集まりである。女性部は、豊かで暮らしやすい漁村づくりを目指し、地域の各種行事にも積極的に参加（写真7、8）し、他団体との交流も深めている。また環境保全にも取り組み、天然石けん作り（写真9）、ゴキブリ団子作りなど、20年近く取り組んでいる。また、平成6年から青色申告教室（写真10）やパソコン講座（写真11）などの活動に取り組み始め、若い部員の育成にも努めている。そのおかげか、正組合員172人のうち、102人の青色申告者がいる。複式簿記での申告を70人が行い、そのうちの48人がパソコンを使って経理担当者として数字で我が家の経営状況を把握しており（図2）また、7名が家族経営協定を結んでいる。

4. 研究・実践活動取組課題選定の動機

近年、漁業・漁村を取り巻く環境は年々厳しい状況を迎え、今後ますます女性の役割が期待されている（写真12）。女性が経営参画をし、漁業経営、漁村生活の担い手として重要な役割を担っている。そんな中、不安定で先行き心細い生活をいかに充実し、安定した生活が送れるかといった課題に取り組むことこそ、女性の力の見せ所と考え、漁家経営を数字でとらえ、それぞれの水揚げ収入に応じた生活を営むことを目指し、女性部員がパートナーとして漁業経営に参画し、経営管理の担当者として力をつけるため、まずは青色申

告のための複式簿記から取り組んだ。

5. 研究・実践活動状況及び成果(効果)

平成4年に税制改正があり、新たに青色申告特別控除制度が適用された機会に、女性部は平成6年から青色申告教室を開催(写真13, 14)し、簿記の基礎から勉強した。始める前から逃げ腰の部員もおり18人で始めたが、良い評判を聞いて、年々5人程度増えていき、今では家族の中で家計担当が世代交代をするときは全員が複式簿記を習うようになった。最初は青色申告のためにと始めた複式簿記だったが、だんだんと経営管理の力もついてきて、「経営改善のための複式簿記」へと変化していった。

こうした活動をしていたところ、平成10年度から「漁村女性活動支援事業」の導入の話があり、「税制学習会(写真15)」を開催したり、家族経営協定の進んでいる農業グループとの交流会(写真16, 17, 18)を行って、協定への興味や関心を高めたり、他地区の漁協女性部との交流会(写真19)を行い、経営改善の意欲向上につなげたりした。

このように、いろいろな学習会を開催する中で、長期生活設計を立てることや、家族経営協定に取り組むことによって、漁業経営をより発展させることが出来るということの理解が進んできた。

そこで、これまでの活動の実践として「家族経営協定」を結んで総仕上げをしようということになり、私を含め学習会に熱心に参加していた4名の参加で勉強会(写真20, 21)を開いてそれぞれ家族構成や漁業種類は違うが、家族が心豊かに楽しい生活を送ることを目標に、各自オリジナルの協定書を作った。平成15年10月22日には漁協組合長や大島支店長などの立ち会いのもとに、それぞれの主人も出席して調印式を行った(写真22, 23)。

一部の部員から始まった取り組みではあるが、みんなの頑張りが女性部の中にも広がり、理解してくれる家族も増え、今年度になって新たに3組の家族が協定を結ぶことになった。

そこで既に協定を結んでいる4組の家族も協定内容の見直しをすることにして、7組の家族が昨年12月9日に協定書の調印式を行った(写真24, 25)。

最初に協定を結んだ我が家を含めた4組の家族の様子を紹介すると、まず、祖父母、父、若夫婦、そして4人の子供達の9名4世代同居の家族は、新しく船を造ることになったこと、子供の教育費のこと、祖父母が病気になった場合の介護のことなど、将来に不安を感じたことから、家族それぞれの役割分担を理解してもらうためのきっかけになればと考えて協定を結ぶことにした。これらの不安を「協定」と「長期生活設計」を立てることで、解決したいと考えたのである。家計を任された若夫婦が協定を結んだことで、話し難かったお金の件が、親と若夫婦の間で話し合うきっかけになった。本人の気持ちの持ち方に変化が見られ、若夫婦は今まで以上に仕事に精が出るようになった。どうやったら儲かるのかなど、夫婦で話し合うようになり、経営状況の分析や、主な出荷物の市場相場をパソコンで管理して、高値となるタイミングを計るなどしている。ただ働くだけではなく、毎日がやりがいのある日々へと変化していき、がんばって水揚げも伸びている。

また、別の家族は後継者にお嫁さんを迎える時のために、経営管理をきちんとやっておこうと家族が心をつにし、毎日イキイキとはりきって暮らしている。家族で旅行に出かける相談も、協定に書いてあるから、すんなりと話がまとまる。

また、夫婦2人で共乗りで漁に出ている人は、「協定を結んでくれないと船には乗らな

い。」と3日3晩かけて主人を説得して協定書にハンコを押してもらった。今では嫁として女性としてではなく、1人のパートナーとして自分の立場を主張し、毎日の漁を2人ががんばっている。協定を結んだことで、協定の内容についての話をする機会が多くなり、夫婦の会話が増えることになった。

最後に我が家の協定の内容は役割分担、報酬、労働時間、福利厚生などを決めた(図3)。年1回必ず健康診断を受けること、また、各種研修、集会には積極的に参加しやすいよう、互いに協力して時間を作ることを決め、今日に至っている。私が女性部の用事で出かける時が多く小さなもめごとが続いていたが、これからの自分達の事を考え話し合ういい機会になった(写真26, 27)。

ただし、それぞれの家族が、全てうまくいっている訳ではない。協定は結んだものの、どうやって実行していけばいいのか戸惑い、決めたとおりに出来るようになるまで時間がかかったとか、協定を結んだことで、協定内容についての意識は高まったが、具体的な成果に結びついていない、などの悩みもある。

また、新たに協定を結んだ3組の家族は、長期生活設計を立てた上で、老後のことを今のうちから考えて、協定を結ぶこととした。残りの人生を健康第一に、楽しく笑って過ごしたいと思っている。

6. 波及効果

協定を結んだといっても、女性の仕事が減る訳でも増える訳でも、ましてや収入が増える訳でもないが、主人が私の女性部の活動に1つ参加してくれたことにより、少しずつ女性部のことを理解し、協力してくれるようになった。

家族経営協定は紙に書いて結ぶことが目的ではなく、結んだことをきっかけに、家族が共に生活を見直すことや、経営のことを話し合うようになることで、昔からの「家長制度」の慣習から出来ていた「我が家のルール」が、見直されるきっかけとなり、曖昧であった私たち女性の立場が協定書という形で確立されることが目的であり成果であると思う。

我が家でも協定書を作成する時に話し合った事、お互いを思いやること、そしてムリ・ムダ・ミエを無くそうということが自然と身に付いた。私の主人は一本釣漁業を営んでいるが近年は水揚量は減るばかりで、魚の価格も昔と変わらないか、むしろ安くなっているため船の経費の節約に苦心し、獲った魚をいかに高く売るか、いろいろと工夫している。

このようにちょっとした工夫でシンプルで儉しい生活の中にもささやかな楽しみを見つけ、不平・不満を互いに言うことがなくなった。嫁、妻としてではなく、1人の人間として、お互いの良きパートナーとして生きる日々を実感し、毎日イキイキと暮らしている。

7. 今後の課題や計画と問題点

小さな島だが幸いにも大島には次世代を担う若い後継者が沢山いるので、このような女性部の活動をモデルとして、将来はもっと家族経営協定を広め、若い世代の後継者が暮らしやすく意欲的に働ける環境をつくるとともに、島外からの新規就業者も入って来やすい開かれた漁村集落となるようにして、『家族経営協定の進んだ島』と言われるよう、輝く笑顔と行動力で日本一元気のある島と女性部を目指して『元気な島をもっとパワーアップ』していきたい。

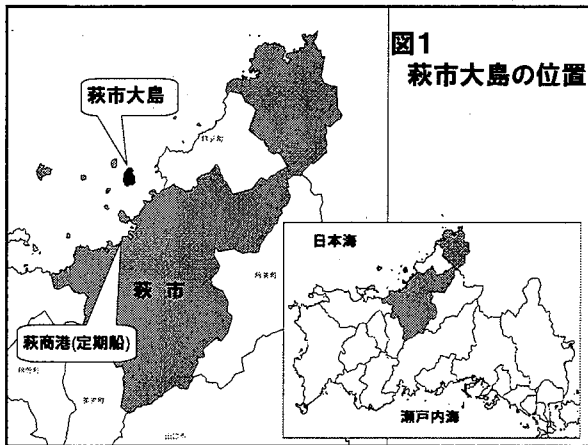


図1 萩市大島の位置

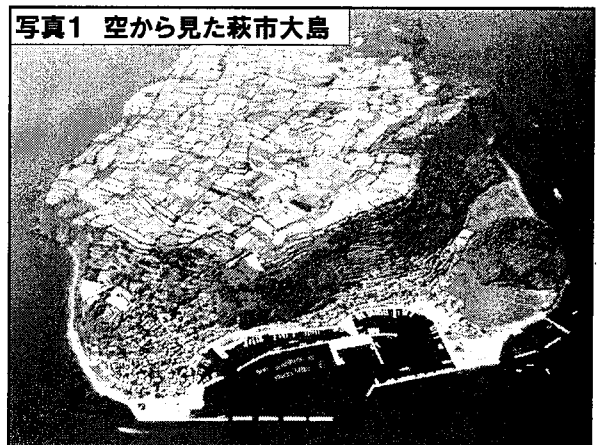


写真1 空から見た萩市大島



写真2 大島航路定期船



写真3 新築された市営アパート



写真4 大島漁港



写真5 若い女性部員



写真6 若い女性部員



写真7
地域の行事(海浜清掃)に参加



写真8 地域の行事(魚料理体験教室)に参加



写真9 天然石けんづくり



写真10 青色申告教室

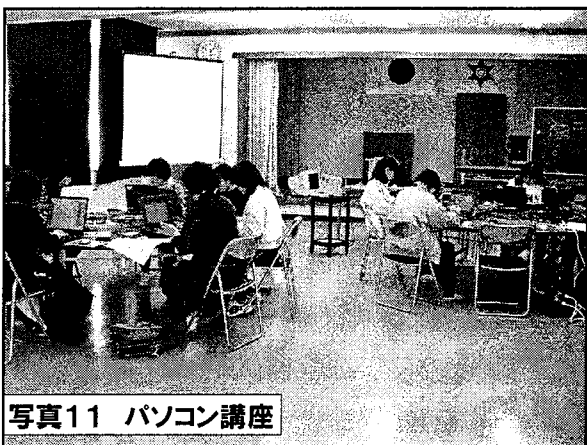
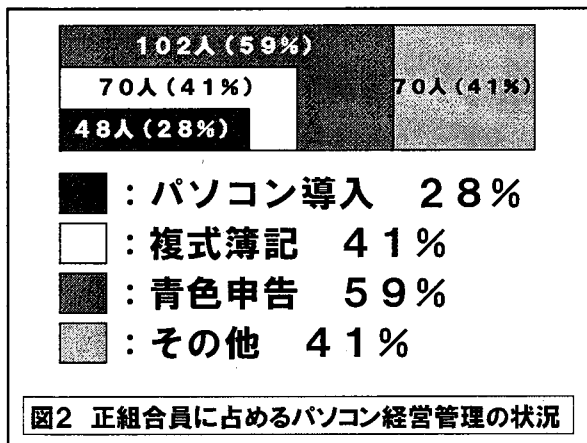


写真11 パソコン講座



海と山の女性が交流

家族経営協定など学習



乳業での学び

写真17
農業グループとの交流会新聞記事

JA山口同士のいるは各と各市大島漁協婦人部

山口県農業グループの交流は、各農協の活動を通じて行われてきた。その中でも、JA山口同士の交流は、各農協の活動を通じて行われてきた。その中でも、JA山口同士の交流は、各農協の活動を通じて行われてきた。その中でも、JA山口同士の交流は、各農協の活動を通じて行われてきた。



みんな笑顔で パートナー

家族のルールづくりに
取り組んでみませんか！



写真21
家族経営協定づくりのテキスト



写真23 4家族の家族経営協定調印式



写真24
7家族の調印式



写真25 7家族での家族経営協定調印式

図3 家族経営協定書～わが家の決まり～

その1 目的 協定の目的	その4 労働時間 1日の労働時間 休憩時間
その2 役割分担 漁業・生活について 各自の役割分担	その5 介護 家族の介護について
その3 報酬 妻の専従者給料など	その6 福利厚生 心身のリフレッシュに 関する事など



写真26 調印後の決意表明



写真27
調印後の協定書を持って